

## 軽川・前田公園周辺 (札幌市手稲区前田)

坂井 伍一

平成19年4月、定年退職により札幌市手稲区に住むこととなり、健康のために自宅近くの軽川に出かけるようになりました。軽川は自宅から歩いて5分ほどのところにあり、住宅街を流れる川幅2m程度の小さな川で、両岸に高さ8mくらいの堤防が敷設され、その上に遊歩道が整備されており、区民の散歩道として利用されています。ここは、「軽川桜づつみ」の名称がつけられ、春には満開の桜が咲き誇っています。堤防と堤防の間は40mほどで、軽川と中の川の合流点は三角州になっています。



軽川・前田公園周辺地図

私の探鳥路は、稲山橋から堤防道路を歩き、砂山橋を渡って左に折れると、東屋に着きます。ここまで約500mほどの距離です。この場所からは、中の川との合流点三角州が一望できます。手前はヨシ原になっており、河畔には大きな柳の木が密生しています。ここでの鳥見は雪解けから子育てが終わるまでの4月から8月頃までとなります。

4月、まだ寒いですが、東屋の前の堤防の上に腰掛けていると、川面をチーツと鳴きながらカワセミがやってきます。ヨシ原の低木には、オオヨシキリが朝早くから大きな声でギョギョシ、ギョギョシと囀り始めます。アオジ、ノビタキも負けじと囀っています。少し時期をおいて、姿を見せることはあまりありませんが、エゾセンニュウがトッピンカケタカと鳴き始めます。特にオオヨシキリの数が多く、あちこちで競い合っています。不思議なことにこの場所ではコヨシキリを見ることはありません。



軽川にやってきたカワセミ '09. 4. 24



松の実を採餌するイスカ '11. 2. 9

アリスイも番で見られ、柳の木などに止まってキイーキイキイ鳴いている姿を見ることができます。三角州は、夏鳥が渡ってきたときの一時的な休息場となっているようでルリビタキ、ベニマシコ、コルリ、メジロなどを見ることがあります。

水鳥では、マガモ、コガモ、カルガモ、アオサギなどを見ることができ、稀にコサギ、ゴイサギがやってくることもあります。他にはモズ、コムクドリ、ホオアカ、カッコウ、アカゲラ、コゲラ、シメ、キセキレイなどを見ることができ、また、上空をハヤブサなどの猛禽類が飛ぶこともあります

軽川と中の川には、キジ（コウライキジ）が棲みついているようで、散歩する人が多い堤防の上を悠々と歩く姿が目撃されます。時には番で、また子連れで歩く姿を見ることがあります。軽川堤防の遊歩道は、日の出から日没までウォーキング、ジョギング、犬の散歩などで人通りが絶えません。よって、大勢での鳥見には不向で4~5人の少人数グループで散策しながらのウォッチングが適当な場所です。また、河畔では多くの鳥達が生活していることから、鳥達を脅かすことのないように、堤防の上からの観察を心がけるようにしています。これまでに私が確認した種類は、40種を越えています。



三角州で囀るオオヨシキリ '08. 5. 8

砂山橋から 800m ほど西よりに、もうひとつの探鳥地「前田公園」があります。ここは周囲 1km に満たない小さな都市公園です。周りに白樺が植えられ、公園内には松が多く、テニスコート、野球場も整備されている区民の憩いの場になっているところです。

この公園にはヤマガラ、シジュウカラ、ヒガラなどのカラ類、アカゲラなどを通年見ることができますが、メインは冬期間です。松の木が多いこともあり、イスカの群れがやってきます。多いときには 50、60 羽の群れが松の実を採餌しています。ちなみに今年は 2 月初めから 1 ヶ月以上にわたって観察することができました。また、白樺が多いことから、ベニヒワがやってきます。平成 21 年には 100 羽以上の群れが白樺の種子を食べにきていました。ナナカマドの木も多く、ツグミやシメの群、レンジヤクもやってきます。ククイタダキ、カシラダカ、イカル、キバシリを見ることもあります。冬期間、公園内は除雪されていないので、雪をラッセルしながら歩くことが多くなります。

また、軽川も同様ですが、住宅街の中にある場所ですので、他人に迷惑がかからない様十分に配慮しながら鳥見をすることが肝要です。



白樺の種子を採餌するベニヒワ '09. 1. 1